

センター5 資本主義経済の影響

【近代 08】(2001 年・本・改) 綿糸紡績業。

1. 紡績女工などを保護するため、工場法が、さまざまな例外規定を持ちつつも実施された。
2. 綿糸紡績業は、朝鮮・中国への輸出を伸ばし、その結果綿糸輸出量は輸入量を上回った。
3. 綿糸生産の増大をはかるため臥雲辰致がガラ紡を発明した。

答→

【近代 08 解答】[3→2→1]

3. ガラ紡は、殖産興業政策の一環として行われた内国勧業博覧会(1877 年)に出品された。
- 綿糸輸出量が輸入量を上回った(1897 年)のは日清戦争後である。
1. 工場法制定(1911 年)は第 2 次桂太郎内閣のこと。

●産業革命期の農業

- ⇒米作を中心とする零細経営が中心
- ⇒輸入品におされ、綿・麻・菜種などの生産は衰退⇒製糸業発達…養蚕は盛ん
- ⇒松方財政以降、1890 年代にかけて小作地率の上昇⇒【**寄生地主制**】の確立
- ⇒貧しい小作農は子女を製糸業など繊維工場に出稼ぎへ出す

●社会問題の発生

産業革命の進展⇒繊維産業の女工の低賃金・長時間労働・虐待

実態

1888【**高島炭鉱事件**】

1899 ルポ『**日本の下層社会**』⇒【**横山源之助**】

1903【**職工事情**】⇒農商務省

※【**足尾銅毒事件**】⇒【**古河市兵衛**】経営の足尾銅山から、【**渡良瀬川**】へ銅毒の流出
 ⇒住民は上京して陳情、代議士の【**田中正造**】は議会で操業停止を迫る、その後天皇への直訴にまで発展 ※→(早稲田大の問題と比較してみよう)



●労働運動

1886 **雨宮製糸の女工スト**(甲府)

1889・94 **天満紡績の女工スト**(大阪)

1897【**職工義友会**】結成

⇒アメリカ帰りの【**高野房太郎**】・片山潜ら
 鉄工組合・日本鉄道矯正会などの労働組合結成
 ⇒機関紙『**労働世界**』

政府の対応

1900【**治安警察法**】制定
 第二次山県内閣時
 労働者の団結権・ストライキ権を制限

1911【**工場法**】制定
 初の労働者保護法

●社会主義運動

1901	【 社会民主党 】結成 ⇒【 幸徳秋水 】・ 安部磯雄 ら、結成	→結成直後に 治安警察法により解散
1903	【 平民社 】結成、『 平民新聞 』発行 (幸徳秋水・堺利彦ら) ⇒日露戦争反対・社会主義の宣伝	
1906	【 日本社会党 】結成 ⇒ 最初の合法的政党 (第 1 次西園寺内閣黙認) 議会政策派(片山潜ら)と直接行動派(幸徳ら)の 対立	→翌年に解散命令
1908	赤旗事件⇒大杉栄・荒畑寒村ら直接行動派検挙	
1910	※【 大逆事件 】が起こる 翌年、⇒【 幸徳秋水 】らが死刑となる	⇒社会主義運動への大弾圧 以後、第 1 次大戦まで社会主義は 「 冬の時代 」となる
1911	警視庁に 特別高等課 (特高)設置 ⇒思想警察(思想を検挙し裁く)	



●製糸業・紡績業 2010 本 2011 本

⇨業種別に何が発展したのかをおさえる！また、年度と何が何を上回ったのかが大事！

製糸業	紡績業	綿織物
原料: 繭 製品: 生糸(絹糸)	原料: 綿花 製品: 綿糸	原料: 綿糸 製品: 綿布(綿織物)
座繰製糸 ↓ 【 器械製糸 】	手紡・ガラ紡(臥雲辰致) ↓ 紡績機械の普及 1883【 大阪紡績会社 】開業 ⇒ 1890 【生産量>輸入量】 ⇒ 1897 【輸出量>輸入量】 輸出先: 中国など 原料・機械とも輸入	手織機 ↓ 飛び杼 ↓ 力織機 1890 年代【 豊田佐吉 】 ⇒国産力織機考案 1909 綿布輸出額>綿布輸入額
1894【 器械製糸 】の生産量が座繰製糸の生産量を上回る 1909⇒清国を抜いて世界最大の輸出国に 輸出先: アメリカなど 原料・機械とも国産		

●重工業の発達

<p>鉄道業</p>	<p>1881【 日本鉄道会社 】(民営)…岩倉具視の口利き、金禄公債を資金に →東京・青森間の鉄道敷設 1889【 東海道線 】全通(官営)、営業キロ数:民営>官営(1889) 1892 鉄道敷設法…幹線鉄道建設、私鉄を将来買収→民鉄建設急増 青森・下関間連絡 1906【 鉄道国有法 】…私鉄の90%を国有</p>
<p>製鉄業</p>	<p>1897【 八幡製鉄所 】設立…【 大冶 】鉄山、【 筑豊 】炭田、撫順炭田から 国内生産の約8割、鋼材生産に圧倒的地位 1907【 日本製鋼所 】(室蘭)…日英資本、海軍向け兵器生産</p>
<p>その他</p>	<p>1905【 池貝鉄工所 】…アメリカ式旋盤の完全製作に成功 【 財閥 】の形成→持株会社を中心にコンツェルン化 4大財閥= 三井・三菱・住友・安田 おまけ 電力事業 (明治初期)火力発電のコスト高で事業不振 (明治中期)蹴上水力発電所の成功、高圧遠距離送電→電化が進む (明治末期)水力発電が総発電力の過半超える 発電量:水力発電>火力発電(1912)</p>